



蔵王一小

祝 創立152周年

11月5日(水)、本校創立152周年を祝う会が体育館で行われました。

元気な校歌斉唱、校長式辞の後、児童を代表して6年生の前田さんがお祝いの言葉を述べました。

「蔵王第一小学校創立百五十二周年おめでとうございませう。このように、長い歴史のある学校で学べることをとても誇りに思います。」

蔵王第一小学校には、一小太鼓など、この学校にしかない伝統や行事が沢山あります。また、児童会活動にも力を入れていきます。私は計画委員として明るいあいさつであふれる学校を目指して活動しています。この学校や地域では、あいさつをするときちんとあいさつが返ってきます。目を合わせて会釈をしてくれることもあります。私は、このあいさつを通して、いろいろな人と関わりをもち、あいさつの大切さを学びました。これからも、明るいあいさつであふれる蔵王一小であることを願います。

山形市立蔵王第一小学校
文責 校長 鈴木章人

2025年 令和7年
11月25日 火曜日

第8号

文字を大きく
見やすくしました



みなさん、この歴史ある蔵王第一小学校で、私たちを支えてくださっている方への感謝の気持ちを忘れずに、これからのいろいろなことに挑戦して行きましょう。蔵王第一小学校創立百五十二周年本当におめでとうございませう。



「あいさつ」は人と人をつなぐ基本であり、思いやりの心を育てる第一歩です。学校では、子どもたちが自ら気持ちのよいあいさつを交わし、互いに尊重し合う雰囲気づくりに努めてまいります。

感謝 3年生収穫祭

本校では、「成沢グリーンフィールド協力隊」の皆様のご協力をいただき、5月に田植え、10月に稲刈りを行ってまいりました。11月14日は、その実りを地域と子どもたちが共に喜び合う収穫祭を開催することができました。収穫祭当日は、協力隊の皆様は餅米を蒸していただき、臼や杵の準備もすべてお力添えいただきました。子どもたちは力いっぱい餅つきを体験し、つくたての餅を納豆あんこ、きなこで味味しながら、秋の恵みと先人の知恵に触れる貴重な時間を過ごすことができました。



地域の皆様の温かい支えのもと、このように自然と向き合い、伝統文化に親しむ学びが続けられていることに、心より感謝申し上げます。

学校保健委員の開催

11月20日、令和7年度の定期健康診断の結果から、児童の視力・体力・肥満・歯科・鼻炎などの健診所見、整形外科(側弯症)や皮膚疾患の傾向、感染症(肺炎マイコプラズマ・インフルエンザ)対策、全国的には、スマートフォンやタブレットの長時間使用、外遊びの減少、生活リズムの乱れが視力・基礎体力・睡眠・心の健康に悪影響を及ぼしており、学校・地域・家庭が連携して予防・介入を進める必要性が示されました。

令和7年度スポーツテストの分析では、柔軟性は改善した一方で、20Mシャトルランや走力、握力に課題が見られました。猛暑、感染症、クマ出没などが外遊びの制限となり、遊具で「握る・ぶら下がる」経験の減少、疲労時に挑戦をあきらめやすい精神的粘りの不足などが要因として挙げられています。今後はマラソン週間や縄跳び週間などの年間指導で持久力と握力の向上を図っていく方針です。学年・性別でも差が見られ、6年女子は

注目!!

ワンコ堂より
山形市の取り組みで、「やまがた・マイスクール応援寄附」があります。
山形市の公立小中学校を指定して寄附することのできる制度です。

学校卒業生や企業など、「母校やゆかりのある学校を応援したい」という気持ちを寄附という形で実現できます。

ご指定いただいた学校では、寄附金を教育環境の充実や特色ある学校づくりのために活用し、こども達の学びや成長を力強くサポートします。



やまがた・マイスクール 応援寄附



全ての項目で苦手意識が強い所見が示されました。

【意見交換】

◎肥満については、山形県全体で高水準が続く、資料配布や教育委員会の支援でも減少しない状況が続いています。保護者の「肥満は病気である」という認識不足や学校間の取組の差が課題とされています。

◎学校では肥満度20%以上の児童へ結果通知・リーフレット配付、月1回程度の保健室特定指導、30%以上の児童へ医療機関受診勧奨を継続します。平常々中等度肥満の増加も示唆され、市全体で見直しを進める方針です。

◎整形・皮膚では、側弯症一次スクリーニングで約14%に疑いがあり、最終診断で約4%（25人に1人）に所見が確認されており、見逃し防止の厳密な抽出を継続します。

◎皮膚疾患ではアトピーがやや増加し、重症度「中等度」は前年の1.5倍に増加との比較所見が共有されました。

◎歯科では未処置の指導対象は減少し改善が見られる一方、要受診者が増加してい

ます。永久歯は比較的早期治療が進むものの、乳歯の受診率が低く、家庭での事前問診や自己検診の重要性が強調されました。

◎皮膚科・鼻炎では、風邪による一時的な粘膜所見を健診で拾いすぎないようにすることや、医師間の判断の差に慎重に対応する必要性が確認されました。

【内科校医 秋場先生より】

感染症では、10月に肺炎マイコプラズマが、ある小学校で大流行し、情報提供の遅れが拡大につながったと指摘されました。

インフルエンザは過去20年で例のない速さで急増しており、学校でのマスク着用、健康観察、早期ワクチン接種（注射不活化と経鼻生の選択）の強い推奨が示されました。経鼻生ワクチンは「痛くない」という利点があるものの優劣は未確定で、シーズン後に院内データを解析する予定です。

HPVワクチンは正確な情報提供の徹底により、山形県の16歳女性の1回以上接種率が82.1%で全国1位に到達し

ました（2025年3月末、山形新聞2025年10月15日）。目標は100%であり、性教育における資料配布・講話の充実、学校管理職の理解促進、「HPVワクチン」表記の推奨が論じられました。男性接種の国際的普及状況や自治体による助成も紹介されました。

【講演 眼科校医山本先生】

「子供の視力について」

学校検診のA/B/C/D判定の仕組みと近視増加のデータが共有されました。B判定約60%、C判定約85%、D判定約95%が近視に起因する傾向があるものの、判定と近視と短絡しない注意が必要です。

世界では2050年に人口の半数が近視になると予測され、日本の小学生では視力1.0未満が約36.8%です。成人で眼軸長26mm以上は高度近視とされ、全国データから日本人児童の眼軸長伸長傾向が示唆されており、学校での適切な啓発が重要であるとされました。

視力低下の全国的傾向を踏まえ、端末利用、姿勢（要注意!!）、生活習慣の改善を

啓発しています。

◇近視の進行

・眼軸長が伸びることで進行します。

・低学年で発症すると進行が速く、強い近視になるリスクが高まります。

◇近視化の要因

・両親が近視の場合に発症・進行しやすいです。

・屋外活動時間の不足。

・近くを見る時間が長く、作業距離が短いと危険です。

◇近視が要因のリスク

・網膜剥離は非近視者の約13倍との報告もあります。

◇予防の手立て

・1日2時間以上の屋外活動を推奨します。

・30cm以上離し、30分に1回20秒以上遠くを見る「30-10-20ルール」若しくは「20-20-20ルール」の実践を推奨します。

◇診断後のアドバイス

・早期から予防的介入を行うことをおすすめします。

・屋外活動の確保と近業の連続を避けましょう。

・生活環境全体でのサポートが必要です。

・近視は20代半ばまで進行する可能性があります。

～12月の主な予定～

2日：読書祭り 4日：4年学習発表会 5日：なかよし班集会 8日：職員会議
9日：ゆきわり養護学校との交流（OL） 10日：全校朝会（表彰）、2年学習発表会
11日：学校運営協議会、1年学習発表会、4年田植踊り学習① 12日：3年、6年学習発表会
17日：校内授業研究会 18日：4年田植踊り学習 19日：6年薬物乱用防止教室 24日：2学期終業式
29日～1月3日：年末年始休日 8日：3学期始業式 9日：通学班会一斉下校